

運送業界の健康支援を生きがいに

146 韓国放送のSAS取材



13年前の8月にスタートした本紙連載。たまたまPC内に保存されていた初回の自身の原稿を見ると、トラック事業者への健康支援の思いやSASスクリーニング検査を立ち上げたきっかけなどが綴られていました。そこで、自分でも本当にびっくりしたのは、13年も経つのに、その思いが全く変わっていないということ。これは「進展がない」と言っべきか、「ぶれていない」と言うべきでしょうか。

◆韓国政府へのアプローチ

そういう中でも、社会変化と共に外部の評価は刻々と高まり、「SASスクリーニング検査」といえば「OCHIS」と、国内外から注目を浴びるようになりました。その一端を示すのが、韓国の国営放送(KBS)から

の取材要請です。目的はスバリ、韓国政府への運輸業におけるSASスクリーニング検査認識へのアプローチと導入に向けての要請です。

私への取材では、スクリーニング検査の一連の流れの説明とともに、SAS対策を立ち上げたきっかけや、治療を開始したドライバー、取り組みを行った会社の意識変化などについての質問がありました。1時間の番組は、全ト協、国交省、専門医、事業者、ドライバーへのインタビューで構成されます。

◆13年間の積み重ねと行政のバックアップ

SAS対策は、居眠り運転防止への寄与はもちろん、身体へ

の影響、公道を走るといふ社会との関わりなどから、対策の目的も多岐で複合的です。しかも日本には、OCHISが13年間積み重ねてきた歴史があり、国や全ト協の強力なリードとご支援により、ここまで到達しました。

このように、日本におけるSAS対策は、簡単な検査やシンプルで効果的な治療法があり、運輸業界においては、「最も義務に近いスクリーニング検査」とまで言われていますが、まだまだ中小企業までは浸透しきれていないという側面や、フォロー面での不完全さも否めません。

「安全と健康」への願いは万国共通です。一歩先を行く日本のSAS対策が、他国のお手本となるよう、新たな気持ちでこれからも運輸業のバックアップに向けて尽力したいと思えます。

※取材の様子はOCHISのHPで紹介しています。放映は8月16日(水)、午後10時〜同11時(予定)。

(次回は9月11日に掲載)

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>